



山形大学
Yamagata University



明治大学
MEIJI UNIVERSITY

米国大学における一般的な 教育効果のアセスメント手法 について

～日本におけるインターンシップ教育への適用可能性を探る～

○藤原 宏司（山形大学）

山本 幸一（明治大学）

山本 美奈子（山形大学）

松坂 暢浩（山形大学）

2023年度 日本インターンシップ学会東日本支部 第1回研究会

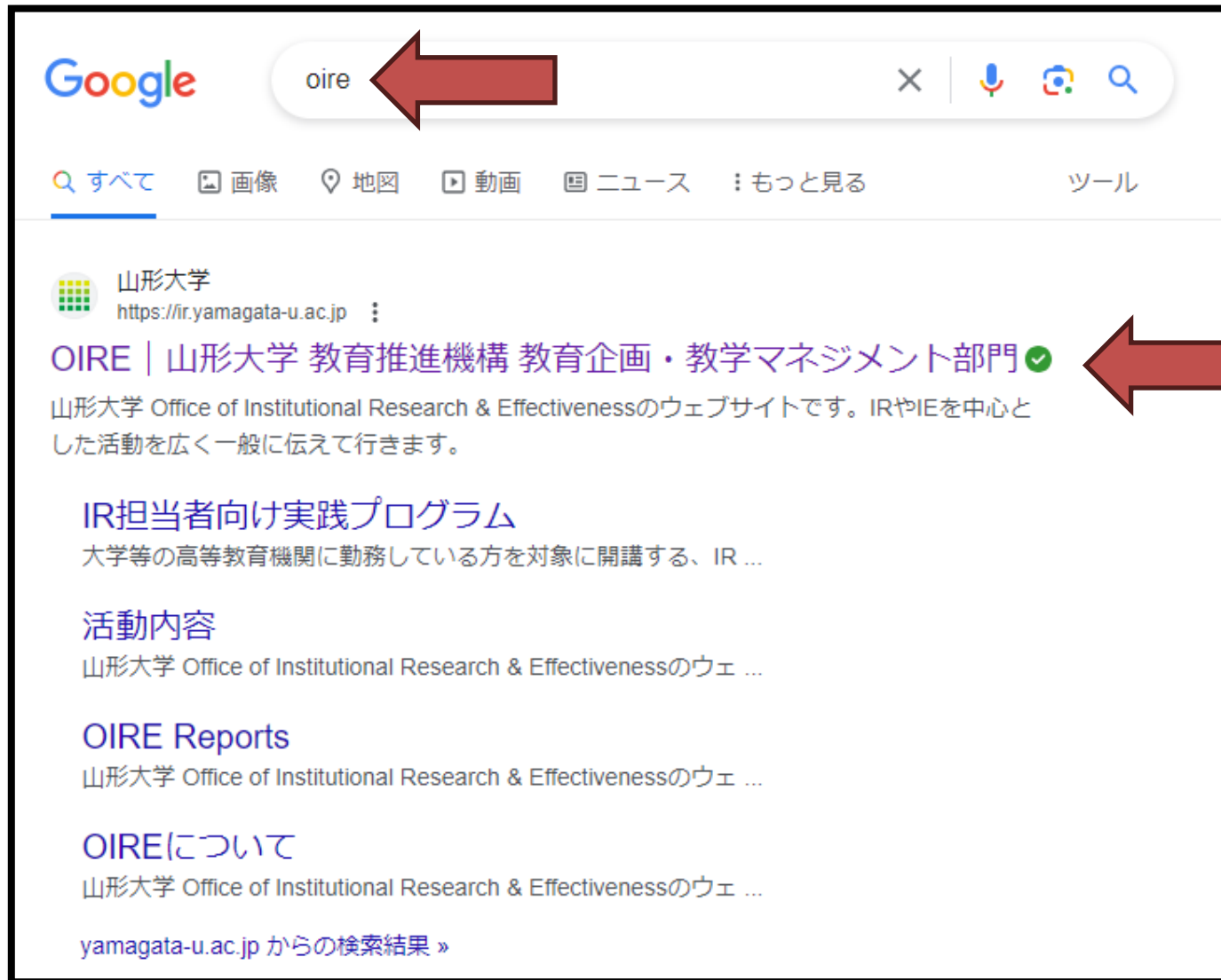
2024.02.10 @ 目白大学

スライドの配布について

山形大学では、SDGsの観点から、発表スライドを
オンラインで公開・共有しています



スライドの場所 : oireで検索



The screenshot shows a Google search interface. The search bar contains the text "oire" with a red arrow pointing to it from the right. Below the search bar, there are navigation tabs for "すべて", "画像", "地図", "動画", "ニュース", and "もっと見る". The search results show the top result for "山形大学" (Yamagata University) with the URL "https://ir.yamagata-u.ac.jp". The main title of the result is "OIRE | 山形大学 教育推進機構 教育企画・教学マネジメント部門" with a green checkmark. A red arrow points to this title from the right. Below the title, there is a brief description: "山形大学 Office of Institutional Research & Effectivenessのウェブサイトです。IRやIEを中心とした活動を広く一般に伝えて行きます。". There are four sub-sections listed: "IR担当者向け実践プログラム", "活動内容", "OIRE Reports", and "OIREについて". At the bottom, there is a link "yamagata-u.ac.jp からの検索結果 »".

Google

oire

すべて 画像 地図 動画 ニュース もっと見る ツール

山形大学
https://ir.yamagata-u.ac.jp

OIRE | 山形大学 教育推進機構 教育企画・教学マネジメント部門 ✓

山形大学 Office of Institutional Research & Effectivenessのウェブサイトです。IRやIEを中心とした活動を広く一般に伝えて行きます。

IR担当者向け実践プログラム
大学等の高等教育機関に勤務している方を対象に開講する、IR ...

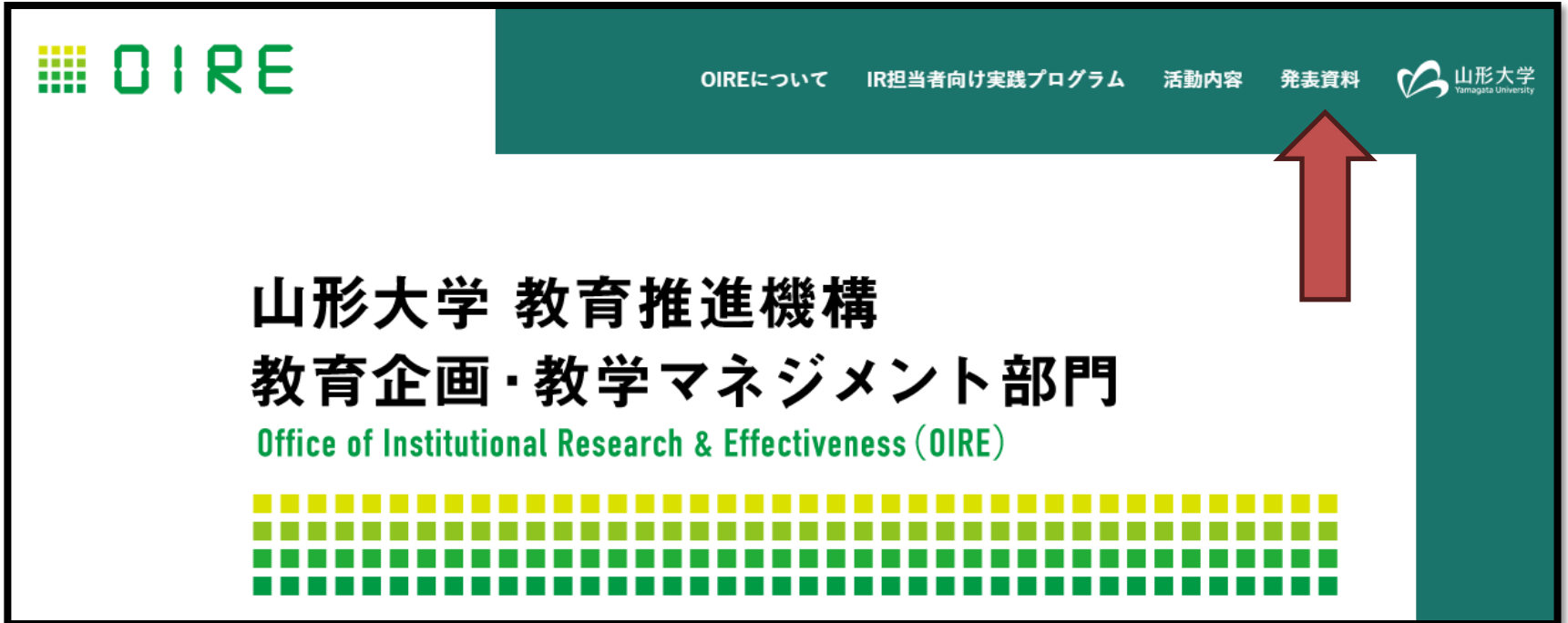
活動内容
山形大学 Office of Institutional Research & Effectivenessのウェ ...

OIRE Reports
山形大学 Office of Institutional Research & Effectivenessのウェ ...

OIREについて
山形大学 Office of Institutional Research & Effectivenessのウェ ...

yamagata-u.ac.jp からの検索結果 »

「発表資料」をクリック



The image shows a screenshot of the OIRE website. The header is dark green with white text. The navigation menu includes: OIREについて, IR担当者向け実践プログラム, 活動内容, 発表資料, and 山形大学 Yamagata University. A red arrow points to the '発表資料' link. The main content area is white and contains the following text:

山形大学 教育推進機構
教育企画・教学マネジメント部門
Office of Institutional Research & Effectiveness (OIRE)

Below the text is a decorative graphic consisting of a grid of squares in shades of green and yellow.

「学会」をクリック



OIREについて IR担当者向け実践プログラム 活動内容 発表資料



発表資料

招待 ▾

学会 ▾

今回の発表内容



発表内容

1. 発表者の自己紹介
2. 教育効果の測定（アセスメント）
3. とあるインターンシップ°関連授業の例
4. まとめ

発表者の自己紹介



発表者の自己紹介

■ 藤原 宏司 | Koji Fujiwara

- 専門は、**米国における高等教育とIR (Institutional Research)** および応用統計学 (Ph.D.)
- 米国の大学・短期大学等で、データ分析、IRおよび大学評価対応業務に従事
- 2016年8月から現職 (山形大学 学術研究院 教授)
- 「山形大学IR担当者向け実践プログラム」
プログラムディレクター
- **インターンシップ分野における研究テーマ**：
「日米におけるインターンシップ制度の比較」

例えば…

- 米国には、連邦政府による奨学金プログラムの一環として「**Federal Work Study (FWS)**」という制度があります
- FWSの**受給資格**を持つ学生は
(主に) **学内の部署等で働き給与**をもらいます
- 2023年度の米国政府による**FWS関連支出額**※は、**約1,700億円**
- 学資援助関連の**支出総額**※は、約36兆円 (学部&大学院生)
- **参考資料** (ちょっと古いけど)
[藤原 \(2016\) 「IR実務担当者から見た米国大学の奨学金制度 ～個人給付型奨学金への転換を見据えて～」](#)

学内プレインターンシップ?

Federal Work Study: コーネル大学の例

- FWSの受給資格を持つコーネル大学の学生は、FWSとコーネル大学による独自援助の合計で、年間最大「**\$3,500**」の**給与**を得ることができます

(年度ごとに金額は微妙に変化します)

The Benefits of Federal Work Study

- You earn money to help you keep your expenses under control.
- You gain work experience and new skills, which improves your marketability when applying for future internships and jobs after graduation.
- You expand your network of contacts and acquire references, both of which you will use for future job opportunities.
- You are a more appealing job applicant to many employers – FWS eligibility gives you an edge in a competitive job market.



教育効果の測定（アセスメント）



教育効果の測定（アセスメント）

- 英語だと、
 - **Learning Outcomes Assessment**（主に米国）
 - **Measuring Learning Gain**（主に英国）
- 米国では、大学評価機関等による**教育効果の測定（アセスメント）**関連の**トレーニングプログラム**があります
 - **4年間プログラム** ← 発表者は、途中まで参加
 - 参加費：現在のレートで「約500万円／大学」
 - **合宿系（3泊4日？）プログラム** ← 発表者は、3回参加
 - COVID-19の影響で現在は中止？

ところで：教育効果測定のための目的は？

■ 学生が

「学ぶべきことを学んだのか」 や

「何を学んだのか」

等を**確認・検証**すること → 「教育改善に活かす」

■ 教育における**継続的改善**

(Continuous Improvement)

- 教育効果測定を**継続的**に行い、その結果を「授業改善に活用」し続けること → **KAIZEN**

学生が「学ぶもの」とは？

■ 授業で学ぶもの（シラバスに記載）

- Course Learning Outcomes = 授業の到達目標
(教育目標)

■ 教育（学位）プログラムで学ぶもの（学生便覧等に記載）

- Program Learning Outcomes = ???

■ 重要なこと

- 教育効果を正しく測定するためには、
明確かつ測定可能な到達（教育）目標の設定が必要

教育効果測定に関する2種類の指標

■ 一般的な定義（米国）

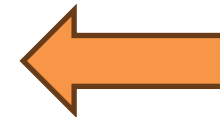
- **直接指標**：学生の学びを**直接的に示す**もの
(**Show** what students have learned)
- **間接指標**：学生の学びを**間接的に語る**もの
(**Tell** what students have learned)

分りにくい？

■ 発表者が授業で教えている定義（山形大学IRプログラム）

- **直接指標**とは以下の2つを満たすもの
 1. 学生の学びを**客観的に測定**できる

2. 教育における**改善点が分かりやすい**



- **間接指標**とは、**直接指標ではない指標のこと**

直接指標の例（教育プログラム／授業科目）

■ Direct Indicators of Learning Outcomes

- 卒業論文／プロジェクト／エッセイ分析
- 外部試験（標準化テスト）
- 事前事後（Pre vs. Post）試験データ分析
- 資格試験分析
- ポートフォリオ分析
- ルーブリック分析（チェックリスト分析）
- 第三者による客観的評価（External Reviewers）
- 共通問題を用いたアセスメント
（Course-Embedded Assessment）

学生が何を学んだのかを「直接的」に測定

間接指標の例（教育プログラム／授業科目）

■ Indirect Indicators of Learning Outcomes

- 学生調査（授業アンケート、実態調査、満足度調査等）
- 卒業生／同窓生調査
- インタビュー（個人／グループ）
- **雇用者調査（＊例外的に直接指標になる場合有り）** ←
- 卒業率／留年率
- **科目成績／GPA／単位取得率** ←
- シラバス分析
- カリキュラム分析（マッピング）

勘違いしている人が多いので注意！

学生が何を学んだのかを「間接的」に測定

※アンケートを実施する場合は「**Social-desirability bias**」に注意！

教育効果の測定（アセスメント）：米国の状況

- 学生アンケート等の**間接指標「のみ」**を用いたアセスメントだけでは、教育改善活動を「しっかりと行っている」とは言い難い状況
 - 2000年代からは、その傾向が特に顕著に…
- **直接指標**を用いたアセスメント「も」必要

とあるインターンシップ^o関連授業の例



とあるインターンシップ°関連授業の例

■ 授業の到達目標（抜粋）

- インターンシップ°の体験を踏まえて、
「自分自身にとって働くとは何か」
を説明できる

どのような指標を使って、教育効果を測定しますか？

- 間接指標を使った測定方法 → 割愛します
- **直接指標**を使った測定の例 → 次のページで

直接指標を使った教育効果測定の例

- 課題として、
「自分自身にとって働くとは何か」
をテーマとする**エッセイ**を書いてもらう

エッセイ分析は
直接指標

- **チェックリストの例** **5項目位は必要**

チェックリスト
分析も直接指標

- ✓ 働くことに関して、学生の「価値観」が
分かりやすく書かれている
- ✓ 結論（例：価値観）を補足する「具体例」が
「複数」挙げられている
- ✓ インターンシップを通じた探究活動の結果が
順序良く記載されている、等

直接指標を使った教育効果測定の例 (contd.)

- (米国の事例を参考に)

加えて、他大学でインターンシップ授業を担当している先生に「**第三者からの客観的評価**」をお願いできれば、よりフェアなアセスメントが可能に

→ Peer Reviewの考え方

External Reviewers
による評価も直接指標

「共通チェックリスト」は作成可能？

- インターンシップ授業における「教育方法」や「教授法」は、**大学の特性や立地条件等に大きく影響を受けますが、インターンシップ教育における「教育目標」の（一部）共通化は可能では？**
 - 我々にとって、「共通チェックリスト」作成へのモチベーション
 - 授業改善を志向したネットワーク作りへ

まとめ



まとめ

■ 本発表で扱った主な内容

- 教育効果の測定（アセスメント）に関する
2種類の指標（直接 vs. 間接）
- **授業改善に関するネットワーク（第三者評価の枠組み）** を
作りませんか？
- **汎用性のある「共通チェックリスト」** を作成しませんか？

THANK YOU!

ANY QUESTIONS, COMMENTS OR SUGGESTIONS?

藤原 宏司 | Koji Fujiwara, Ph.D.

kfujiwara@cc.yamagata-u.ac.jp

